

共闘を恐れ積極的に語るものなし

五十嵐 仁（法政大学大原社会問題研究所前教授）

〔以下の談話は、『しんぶん赤旗』2016年6月15日付、に掲載されたものです。〕

安倍首相が野党共闘に対し、ネガティブ（否定的）キャンペーンの典型をしているのは、ポジティブ（積極的）なものを打ち出せない、政策でたたかえないということです。

トップリーダーが先頭になって、こんなネガティブをやるのは、非常に醜く、みっともない。

一国の首相が、選挙でそんなことしか言えないのかと、恥ずべき行動です。

キャンペーンの自身が野党共闘への攻撃になっているのは、それが一番怖いからです。野党共闘の威力を十分認識しているから、「民共合作」「民進に入れると共産がついてくる」などと分断、共闘の足並みを乱す攻撃を仕掛けています。

中でも日本共産党に対して時代錯誤の攻撃を集中しているのは、共産党が野党共闘の中心で、最も怖い機関車役をしているからでしょう。機関車を攻撃して足止めすれば、共闘は止まると思っているのです。